



# 文化財マップ

## 大城・金島校区の

### 大城・金島校区の文化財

大城・金島校区には多くの歴史が残されています。

北野町最初の村は良積遺跡です。北野町は縄文時代のおわりころからはじまるようす。その後、定格遺跡や今寺遺跡、仁王丸遺跡などが出現します。弥生時代になると、遺跡が急に増えはじめます。弥生時代に始まった水稲耕作がこの地に適していたことが原因と考えられます。仁王丸遺跡から半島系無文土器や塚島遺跡から支石墓が見つっています。これらは朝鮮半島から伝わったものであり、朝鮮半島から移住してきた人たちが北野町の人たちに直接水稲耕作の技術を教えてくれたと考えられます。

弥生時代のおわりになると、町中になった遺跡が一つ集まります。その集まりが良積遺跡です。20haを越える巨大集落に成長し、青銅鏡や勾玉などをもつ特権階級を生み出すほどです。ただし、この巨大集落も古墳時代になると消滅してしまいます。この集落に住んでいた多くの人々はどこへ行ってしまったのでしょうか？大きな謎が残ります。

塚島古墳は、この校区に唯一残っている古墳です。約1500年前のものと考えられますが、巨大な石を使ってつくられた石室が特徴です。どのくらい権力をもった人が眠っているのでしょうか？

奈良時代～平安時代、金島校区に小さな役所が置かれます。古賀ノ上遺跡です。ただし、役所というには少しばかり形が変わっているため、特殊な機能をもった役所であった可能性が考えられます。

正確にはわかりませんが、鎌倉時代の終わりごろに赤司城がつくられます。戦国時代になると、各勢力の領土争いに巻き込まれ、何度も城主が変わります。江戸時代になり、ようやく城主が田中家に安定しますが、すぐに一国一城令によって取り壊され、その石垣は現在久留米城の石垣として残っています。

金島小学校区のシンボル、床島堰は、正徳2(1712)年、久留米藩の財政難を乗り切るため、農産物の増産を目的につくられました。九州最大の川、筑後川をたった73日間の突貫工事で堰き止めました。このことは、当時、この事業が農民たちにとってどれほど大切だったか？ということをお話しています。現在、3000haの水田を潤し、日本有数の穀倉地帯を守りつづけてくれています。

《文化財に対するお問い合わせ》  
久留米市 文化観光部文化財保護課  
久留米市城南町15-3(市役所16階)  
☎0942-30-9225 ☎0942-30-9718  
E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp  
久留米市埋蔵文化財センター  
久留米市諏訪野町1830-6(えーるピア敷地内)  
☎0942-34-4995 ☎0942-34-5045



開館時間：午前9時～午後5時  
休館日：土・日・祝祭日・年末年始  
入館料：無料

久留米市埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡から出土した遺物(土器・石器・金属器)や図面・写真などの記録を収集・整理・研究するために、平成6年4月にオープンしました。センターでは、資料の貸し出しや文化財に関する相談に応じています。また、「ふるさと」の歴史とふれあふ展、春には「文化財フェスタ」、秋には「考古資料展」などのいろいろな企画展を開催し、あわせて体験学習や現地説明会など盛りだくさんの企画を行っています。

体験学習「まが玉づくり」のようす



久留米市埋蔵文化財センターのご案内

### おおきなかついせき 大城中筒井遺跡

弥生時代中頃の墓地が見つかりました。墓地は、甕棺墓・石棺墓・祭祀土壇から構成されています。すぐ近くに大城小学校校庭遺跡がありますが、この遺跡の集落にあたると思われます。

また、弥生時代中頃の水田跡もみつっています。耕作面・畦・杭の痕跡等が確認されています。水田の年代を示すものがなかったため、杭の痕跡で年代を調べた結果、約2,000年前の年代が算出され、墓地とほぼ同じ時代の水田であることがわかりました。



### よしづみせき 良積遺跡

良積遺跡の名前は良積石に由来します。調査の結果、縄文時代のおわり～鎌倉時代の集落跡や墓地であることがわかりました。住居跡160軒、井戸250基、甕棺墓40基などがみつかりました。弥生時代には、集落のまわりを深い濠で囲んだ環濠集落であったこともわかっています。また、多くの石器や土器をはじめ、青銅器、鉄器、木器、陶磁器などが出土しました。

しかし、良積遺跡は全体のほんの一部を調査したにすぎず、未だに多くのものが多くの謎とともに現在も眠っています。



### こがのうえいせき 古賀ノ上遺跡

古墳時代のおわり～奈良時代の集落跡と奈良時代～平安時代の役所跡が見つかりました。

集落跡からは多くの住居や建物、井戸が見つっています。奈良時代になると、50m四方の建物群が出現します。公的施設と考えられますが、500mの間に4ヶ所の似たような施設がおかれています。筑後川の南側は筑後国府や御井郡衙がありますが、川の北側にはなにも公的施設がありません。川を挟んだ御井郡にとって、川の北側になにもないのはとても不便で危険な状態です。そのため、古賀ノ上遺跡のようなミニ役所がおかれたのだと考えられます。

